

結 語

われわれは最近1ヵ年に31才, 9ヵ月, 25才の睾丸腫瘍患者に睾丸剔出術を行い, 組織検査の結果, 第1例はSeminom, 他の2例は胎生癌(第3例の一部は絨毛上皮腫)であつたので考察を加えて報告した。

(稿を終るにのぞみ御校閲を賜つた恩師青柳教授に深謝の意を表する)

参 考 文 献

- 1) 青木行俊他: 睾丸畸形腫の1例. 日外誌, 57, 昭31.
- 2) 朝倉真: 巨大な腹腔睾丸Seminomの1例. 東北医誌, 56, 昭33.
- 3) 畠山陽一他: 興味ある睾丸腫瘍の1例. 日外誌 56, 昭30.
- 4) Herman: The Practice of Urology. Saunders, Philad., 1939.

- 5) 平田清二, 池田稔: 幼児に発生した睾丸腫瘍の1例. 外科, 19, 昭32.
- 6) 鴨井清一他: 幼児睾丸腺癌の1例. 48, 昭28.
- 7) 木村健也他: 左側頸部リンパ腺転移を主訴として来院した悪性睾丸腫瘍の1例. 東北医誌, 53, 昭31.
- 8) 工藤三郎他: 乳幼児の睾丸に発生した胎生癌3例. 外科, 19, 昭32.
- 9) Lowsley & Kirwin: Clinical Urology. The Williams & Wilkins Co, Ltd. Baltimore, 1940.
- 10) 中島重一他: 睾丸腫瘍の1例. 臨床外科, 11, 昭31.
- 11) 太田敏明: 小児悪性睾丸腫瘍の2例. 米子医誌, 6, 昭31.
- 12) Willis: Pathology of Tumors. The Mosby Co. Ltd. St. Louis, 1953.
- 13) 山田克巳: 睾丸畸形腫の経験. 交通医学, 9, 昭30.

ペニシリン注射後に発生した接種結核の1例

京都大学医学部外科学教室第2講座 (指導: 青柳安誠教授)

土 倉 一 郎

(原稿受付: 昭和34年2月28日)

A CASE OF INOCULATION TUBERCULOSIS
FOLLOWING PENICILLIN-INJECTION

by

ICHIRO DOGURA

From the 2nd Surgical Department, Kyoto University Medical School
(Director: Prof. Dr. YASUMASA AOYAGI)

A boy, 2 years and 9 months old, suffering from acute tonsillitis received a penicillin injection in the left thigh. A painful induration on the injected region and painless swelling of left inguinal lymph nodes was discovered one week after the injection. As both induration and swelling had developed gradually into abscesses, those were incised. He was admitted to our clinic suffering from incurable incised wound on the left inguinal region. After 5 successive operative procedures this wound cured completely. Histological findings of the extirpated lymph nodes revealed tuberculosis. It couldn't clarified how tubercle bacillus had invaded in this case. However, there are two possibilities, either the tubercle bacillus entered the skin surface of the injected region, or that injector had been contaminated with this bacillus. In this case, the author believes that the latter is right.

最近われわれはペニシリン注射後生じた接種結核の1例を経験したのでここに報告する。

症 例

患者：2才9ヵ月の男子。

主訴：左鼠径部の難治性創傷。

現病歴：某医から扁桃腺炎の診断のもとに、左大腿部側面にペニシリン注射を受けたが、約1週後注射部位に圧痛のある硬結を生じ、つづいて左鼠径部の無痛性腫脹をきたした。その後両者とも日と共にその度を増してきたので3週後切開排膿を受けた。注射部位は約7ヵ月後に癩痕性に治癒したが、鼠径部切開創は容易に治癒せず、昭和30年9月11日京大外科第2講座に入院した。マントー氏反応は1才4ヵ月でBCG接種を受けてから陽性である。

既往歴：生来著患を知らず、両親は健在で同居者に結核患者はない。

現症：体格骨格共中等、栄養不良、皮膚蒼白、胸部、腹部、その他に異常を認めない。

局所々見：左大腿側下部の中央に帽針頭大の完全に治癒した切開癩痕を認め、暗赤色で皮膚面より沈下している。左鼠径靭帯のほぼ中央部および靭帯より2横指下方に靭帯に平行してそれぞれ1cmおよび2cm長の切開創を認め、肉芽は弛緩貧血性で辺縁の穿堀はさほど著明でない。創の周囲は左鼠径部および鼠径下部全体にわたりビマン性に腫脹し、被覆皮膚は暗紫赤色をおび、触診上硬結を触れるが、局所温度上昇、圧痛を認めない。硬結の表面は凹凸不平で大小多数の腫瘍を触れ、腺塊形成を認め、硬結のほぼ中央部に波動を証明する。さらに左髌蓋骨の上縁より2横指上部に小

指頭大、弾力性軟、圧痛のない腫瘍を触れる(図1)。

臨床検査所見：鼠径部硬結の波動ある部位を試験穿刺してえた膿汁を塗抹検鏡して抗酸性菌を証明した。尿、血液検査では異常所見を認めず、また胸部レントゲン検査でも異常を認めなかつた。

手術所見および術後経過 9月14日難治性肉芽創と共に腫大した左鼠径部および左鼠径下部リンパ節をすべて摘出して、ストマイ、ペニシリンを局所に注入した。手術創は術後リンパ漏を起したが、連日穿刺排液を行ない第1期癒合を営み治癒した。ところが術後10日目頃、大腿下部の腫瘍が増大して示指頭大となり、また左腸骨窩部にくるみ大の腫瘍を触れるようになったので、さらにこれらを摘出したところ、いずれも乾酪膿瘍化した左下腹壁リンパ節および膝リンパ節であつて、創は第1期癒合を営み10月4日退院した。ところが退院約2週後、ふたたび左鼠径下部と左腸骨窩部の手術創から少量の膿汁分泌をきたすようになり、10月25日再入院した。再入院後はストマイ1日1回0.5g宛全量9gを筋注して、難治創の経過を観察したが、創は容易に治癒しないので、11月26日両難治創の搔爬を行なつた。しかしその後も膿汁分泌がなお続くので、さらに12月7日両部位の搔爬を行ない、鼠径下部のみ治癒したが、腸骨窩部はなお分泌物の排出が止らず、さらにまた搔爬を行ない、遂にこの創も治癒して翌年2月5日退院した。

組織学的所見：摘出リンパ節は組織学的に結核性病変を認めた(図2)。

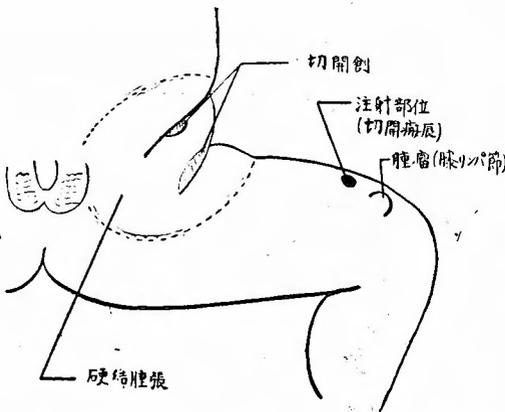


図 1

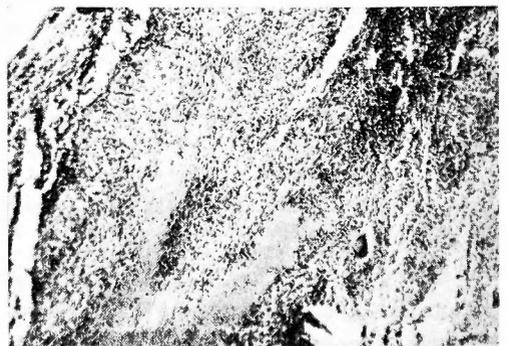


図 2

以上述べたように、本例はペニシリン注射に際してなんらかの機転で結核菌が同時に接種せられ、注射部位および所属リンパ節に結核性病変をきたしたものであることには間違いがない。この場合の感染機転は不明であるとはいふものの、ペニシリン製剤には結核菌

の混入はないものと考えてよく、従つて注射局所の皮膚に結核菌が附着していたか、または注射器具が結核菌で汚染されていたものであるかのいずれかであろうと考えられる。特によく巷間では、注射筒の消毒を簡単にアルコールを通す程度ですましていることなどから、結核病巣に基づく膿を穿刺した注射筒の消毒が不完全となり、そのために結核菌の感染をきたしたものであるかとも考えられる。一般に接種結核は初感染者に多いことが報告されているが、本例ではすでにBCG接種を受けてマンロー氏反応が陽転している点から、再感染接種結核の病像をとるべきであろう。しかるにコッホ氏現象にみられるような良性の経過をとらずに、乾酪膿瘍化の傾向の強い所属リンパ節炎を次々にくりかえして起しており、初感染と同じような所見を呈している。このような事実は、感染結核菌量に関係して起るものであつて、BCG接種によつてえられたアレルギーは多量の感染菌の体内侵入を抑制することができないうえ、初感染のような状態をきたしたものと

考えられる。

結 語

およそ1年の長い経過のうちに治癒したペニシリン注射後の接種結核の1例について報告したが、おそらくこの接種結核の起因は、注射器具の不完全な消毒によるものである。

参 考 文 献

- 1) 天野重安：初感染淋巴腺の構造。日本臨床結核，7，8，327，昭23。
- 2) 為森寿夫：接種結核の1例。京大外科集談会年報，No.1，118，昭20。
- 3) 岡捨己：乳幼児接種結核症。抗酸菌病研究雑誌，9，261，昭29。
- 4) 田村政司：腸チフス予防注射による接種結核症。結核，25，463，昭29。
- 5) 徳岡俊次，他：接種結核。最新医学，8，218，昭28。
- 6) 西村周郎：接種結核の3例。京大外科集談会年報，No.3，153，昭25。